

## 「子ども部会」平成30年度後期活動報告について

### 1 開催日時

第9回子ども部会	平成30年12月4日(火)
第10回子ども部会「子育て支援セミナー」	平成30年12月20日(木)
第11回子ども部会	平成31年2月15日(金)

### 2 部会員

団体等名	氏名
社会福祉法人 ひかりの家	大南 友幸 (部会長)
医療法人 成精会	水野 美香
刈谷市肢体不自由児・者父母の会	藤井 孝
刈谷手をつなぐ育成会	篠原 真由美
らっこちゃん親の会	宮田 志保子
刈谷児童相談センター	河合 清香
刈谷市立刈谷特別支援学校	岡田 由理
愛知県立安城特別支援学校	説田 智洋
子育て支援課	山本 奈緒子
学校教育課	早川 真由美

### 3 報告事項

#### (1) 第9回子ども部会(平成30年12月4日開催)

##### ア 子育て支援セミナーの開催について

保護者支援を目的とした子育て支援セミナーを開催するため、医療の立場からみた子どもの成長と発達についての基礎を学んでいただく講演と来場者からの事前質問について内容の検討を行った。

(ア) 児童精神の分野から、成長の過程における子どもの状況に応じた関わり方について事例をもとに講演を行う。

(イ) 参加者から申し込みの際にいただいた事前質問について、各部会員等が医療、福祉、教育の立場から回答する。

イ 福祉と教育の連携体制について

(ア) 「わたし手帳」について

配布対象者は限定していなかったが、現在は主に市内の障害児相談支援事業所において配布し、活用していることを踏まえ、今後は乳幼児期～学齢期の障害児ならびに障害の疑いのある児童を配布対象者とする。

18歳未満の人に対しての障害者手帳の交付の際や障害福祉サービス・地域生活支援事業の受給者証発送時などに「わたし手帳」を紹介・配布することで、障害児のサービスを利用していない児童に対しても周知を図る。また、市内の障害児通所支援事業所が集まる「子ども連絡会」において「わたし手帳」を改めて紹介したり、保健センターにおける子育て相談の際にも「わたし手帳」を紹介するなど、周知拡大を進めていくこととした。

(イ) 支援計画の共有

当事者支援のために各福祉事業所が作成する「個別支援計画書」と学校側が作成する「教育支援計画書」について、保護者と連携して活用していく。

(2) 第10回子ども部会「子育て支援セミナー」(平成30年12月20日開催)

ア セミナー内容

内容	講演者等
講演 「子どもの成長と発達について」	医療法人成精会 理事長 平野 千晶 氏
来場者からの質問タイム	【コーディネーター】 ひかりのかけ橋 大南 友幸 氏
【テーマ】 ・子どもへの接し方 ・学校関係 ・支援関係 ・将来のこと ・その他	【回答者】 医療法人成精会 平野 千晶 氏 刈谷市教育委員会学校教育課 尾本 国博 氏 安城特別支援学校 説田 智洋 氏 刈谷市立刈谷特別支援学校 岡田 由理 氏 刈谷市肢体不自由児・者父母の会 藤井 孝 氏 刈谷手をつなぐ育成会 篠原 真由美 氏 らっこちゃん親の会 宮田 志保子 氏 刈谷市基幹相談支援センター灯 関 美智子 氏

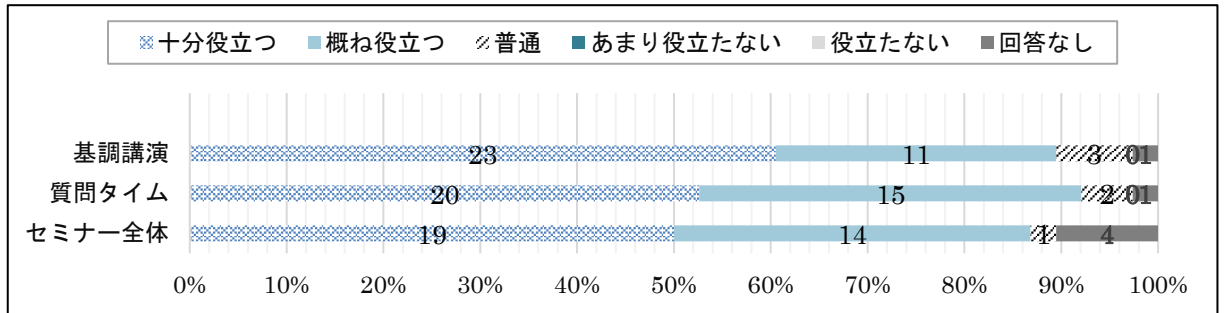
イ 参加者数

44名（一般参加者31名、支援機関及び当事者団体等13名）

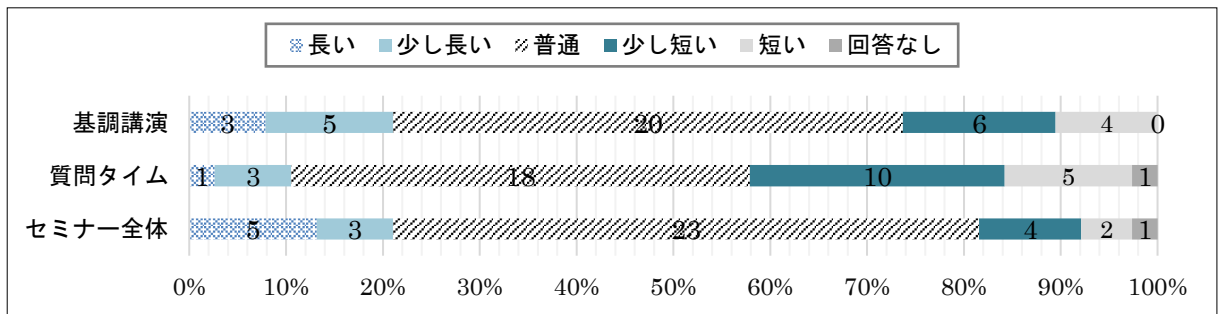
※前年度実績 55名（一般参加者39名、支援機関及び当事者団体等16名）

ウ アンケート結果

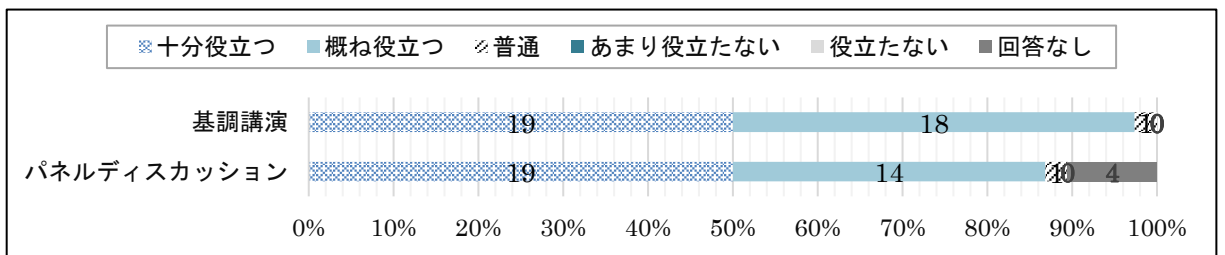
【内容の理解度】



【時間】



【日常の子育てや生活】



【自由記述】

- ・子どもは体験を通して言葉の理解や発達をしていくと分かった。失敗をしてたくさん考えて豊かな人間に成長すると分かり、子育てに役立てていきたいと思った。
- ・子どもの発達の基本とポイントになる段階を改めて学び直す事ができた。豊かな失敗、五感をフルに使った体験の大切さを改めて痛感した。
- ・質問タイムで具体的なアドバイスを聞くための時間が足りなかった。
- ・その場での質問はプライバシーの問題など難しい点があるので、事前に質問を募集して当日それについて回答するのは良いと思う。年に1回セミナーをやってほしい。

### (3) 第11回子ども部会（平成31年2月15日開催）

#### ア 子育て支援セミナー振り返りについて

参加者からのアンケート結果に基づいて、当日の所感や反省点を確認し、来年度のセミナー開催について検討を行った。

(ア) 参加者から今後もセミナーを開催してほしいという意見があり、子育てについて勉強したいという保護者のニーズがあることが確認できたので、来年度以降もセミナーを開催していきたい。テーマや対象をよく検討するべきであり、「就園・就学について」や「思春期における支援」など対象者を限定したテーマで行うのもよいかもしい。

(イ) 今回の質問タイムは、事前に参加者からいただいた質問に対して一方的に回答する内容だった。来年度はグループワークをするなど、参加者同士の情報交換の時間を作ってもよいかもしい。

(ウ) 前年度より参加者が減少したことを踏まえ、来年度は対象とする人を早い時期から絞り込み、広報の時間を確保することにより、参加人数を増やしていきたい。

#### イ 福祉と教育の連携体制について

##### (ア) 支援計画の共有

「教育支援計画書」について、保護者と協力しながら作成することができて、「わたし手帳」等とも連携しながら活用できるように様式の見直しを行い、各学校の教員へ周知を進めていく。

##### (イ) 「わたし手帳」について

平成31年2月より障害者手帳の交付の際や障害福祉サービス・地域生活支援事業の受給者証発送の際に合わせて「わたし手帳」の紹介・配布を行っている。また、保健センターにおける子育て相談の際にも必要に応じて、「わたし手帳」の紹介・配布を行うこととした。

##### (ウ) 子ども連絡会開催についての報告

市内の障害児通所支援事業所が、互いに顔を合わせる中で支援状況や機関ごとの特色を知り、より柔軟かつ適切な支援を行えるよう意見交換を進めるとともに関係性の構築を図る目的で、平成31年1月22日（火）に第1回目を開催した。

##### (a) 内容

4つのテーマ（「利用児への支援について」、「保護者との関わり方について」、「学校、相談支援事業所の連携について」、「通所支援事業運営について」）ごとのグループに分かれて、グループワークを行った。

(b) 参加者へのアンケート結果

「意見交換ができて有益だった」、「関心のあった内容、疑問に対しての話し合いでとても勉強になった」、「情報共有するいい機会だと思う」などの所感をいただき、来年度以降も開催してほしいという意見だった。

(エ) 医療的ケア児の支援体制の整備について

国の指針において、各市町村は平成30年度末までに、医療的ケアが必要な障害児（以下「医療的ケア児」）のための保健、医療、障害福祉、保育等の関係機関及び当事者団体等から構成される協議の場を設置することが示されているため、来年度以降、子ども部会を医療的ケア児支援のための協議の場として正式に位置付けすることにより、医療的ケア児の現状把握・分析、支援の連携などを含め、課題の共有と対応策の検討等を行っていくこととした。

#### 4 平成30年度の目標に対する総括及び今後の検討課題

##### (1) 子育て支援セミナーについて

前年度に引き続きセミナーを開催し、参加者の満足度は高かった。病院の先生、福祉機関、教育機関及び実際に子どもを育ててきた先輩保護者からの生の声を伝えられたことで、保護者が自身の子育てについて見つめ直し、考えるきっかけ作りをすることができた。

来年度については、多くの方に参加いただけることを目指して、テーマ、開催時期及び時間配分の検討をすることにより保護者のニーズに合ったセミナーの開催を目指す。

##### (2) 福祉と教育の連携について

「わたし手帳」について、広報の方法等を検討し、多くの方に配布できるように広報を拡大することができた。

今後は「わたし手帳」を普及させていく中で障害のある児童とその保護者及び各支援機関等からご意見をいただき、「わたし手帳」の中身についても検討していく。また、「教育支援計画」が新しい様式となることを踏まえ、その効果的な活用方法も検討する。